

がれき受け入れないで

市民団体や
移住者組織

名張・伊賀市長に要望書

【伊賀・名張】食の安全
について考える名張市の市
民団体「ごもごはん」



（草部豊美代表）と、東日
本大震災の被災地から移住
した伊賀地域の市民でつく
る「なな色の空」（村
上日苗代表）は二十四
日、震災がれきの受け
入れをしないよう求め
る要望書を、亀井利克
……

菅生秘書室長（左）
に震災がれき受け入
れをしないよう求め
る要望書を提出する
草部代表ら＝名張市
役所で

名張市長と内保博仁伊賀市
長宛てに提出した。

この日、両団体の会員ら
約五十人が名張市役所を訪
れ、草部代表（西モ）が、亀井
市長の代理で出席した菅生
治郎秘書室長に要望書を手
渡した。震災後に福島県か
ら伊賀市に移住した村上代
表（三丸）は「やっと安心して
暮らせると思っていた矢
先、がれきの受け入れの問
題が心身にストレスとな
っている」と話した。菅生
秘書室長は「要望は市長に

伝え、できるだけ早く回答
します」と述べた。

亀井市長は要望書を受け
て、「処理施設を有する伊
賀市と共同歩調を取り、市
民の安全安心の確保や風評
被害の防止など、市民の理
解を得ながら慎重に取り組
みます」とコメントした。

この後、両団体の会員らは
伊賀市役所を訪れ、富岡通
郎住民生活調整監と馬場幸
雄清掃事業課長にも要望書
を手渡した。

要望書は震災がれきの広
域処理について、「被災地
の雇用にも収入にもなら
ず、原発事故で避難した方
々にとって、さらなる不安
を強いられる施策」と指
摘。震災がれきや焼却灰、
放射能汚染した普通ごみを

受け入れないよう求めた。
また、震災がれき受け入れ
による影響や、健康被害に
対する補償などを問う公開
質問状も提出した。五月
中の回答を要求した。